

診療科  
血液内科

疾患名  
再発・難治性多発性骨髄腫

レジメ名  
DLd療法(3-6コース)

投与間隔  
1コース 4週間 計 4コース

| 商品名     | 一般名     | 略号  | 投与量           | 投与方法    | 投与時間 | 投与日             |      |         |       |       |       |          |  |
|---------|---------|-----|---------------|---------|------|-----------------|------|---------|-------|-------|-------|----------|--|
|         |         |     |               |         |      | day1            | day2 | day8~14 | day15 | day16 | day21 | day22~28 |  |
| ダラザレックス | ダラツムマブ  |     | 16mg/kg/day   | div     | 備考参照 | ●               |      |         | ●     |       |       |          |  |
| レブラミド   | レナリドミド  | LEN | 25mg/body/day | p.o.    |      | ← day1~21連日投与 → |      |         |       |       |       |          |  |
| デカドロン   | デキサメタゾン | DEX | 20mg/body/day | div(注1) | 15分  | ●               | ▲    | ▲       | ●     | ▲     |       | ▲        |  |

**備 考**

- ・注1: day1,15(●)はデカドロン20mgのdiv、day2,16(▲)はレナデックスの経口投与とする。またday8~14,22~28中のいずれか1日でレナデックス40mgの内服を行う。  
75歳超またはBMI<18.5kg/m<sup>2</sup>例ではday2,16の経口投与は省略し、day8~14,22~28のレナデックスも20mgに減量可。
- ・レブラミドは毒性に応じて15mg、10mg、5mgに調整。Ccr 30~60mL/min例では当初から10mgに減量。Day1、15はダラザレックス投与前または同時に投与。
- ・infusion reactionを軽減させるために、本剤投与の1~3時間前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤、副腎皮質ステロイドホルモンを前投薬する。具体的には、1時間前までに  
カロナール1,000mgを内服し、デカドロン20mg+ポララミン5mgのdivを終了する(15分間で投薬後、1時間生食100mLのみとし、その後ダラザレックス)。
- ・気管支喘息や呼吸機能検査でFEV1.0<80%のCOPD例では、2日間はポララミンなど抗ヒスタミン剤の内服、短期間作用型β<sub>2</sub>アドレナリン受容体作用薬の吸入および原疾患  
の治療(気管支喘息では吸入ステロイド±長時間作用型β<sub>2</sub>アドレナリン受容体作用薬、COPDではスピリーバやアドエアなどの長時間作用型気管支拡張薬±吸入ステロイド  
の事後投与)が考慮される。
- ・ダラザレックス投与24時間以降に発現する遅発性infusion reactionを軽減させるため、必要に応じてレナデックス20mgの内服追加を検討する。ただし、ダラザレックス投与翌日  
にもともとレナデックス投与予定の場合は追加不要。

登録年月日  
2018 年 2 月 7 日

登録No.  
No. 379-3